

# 客船ターミナルを核とした南末広町再生計画

建築計画研究室 水橋 時生

(令和3年2月8日提出)

## 1. 研究の背景と目的

徳島小松島港は、昔から近畿経済圏との結びつきが強く、四国の海上交通に大きく寄与してきた港である。かつては新町川河口を中心に発展してきた徳島港区は、昭和21年に河口部両岸の整備を皮切りに、順次、中洲、万代地区から末広、沖洲地区等の下流地域へと整備を進めてきた。しかし、現在の客船・物流の拠点は再度新町川河口に移っている。そして今後は、四国横断自動車道の開通や徳島と関西国際空港を結ぶ高速船航路の開設が予定されている。それに伴い、新町川沿いはより高密度高機能なエリアが要求される。

そこで、本研究では現在物流のみの交通になっている下流地域に位置する港に再度拠点を移すことでその地域にかつての活気を取り戻し、まとまりのあるエリアにする計画を提案する。本研究では現在南沖洲に位置する「徳島港フェリーのりば」の移転を検討し、客船ターミナルの設計と周辺施設の計画を行う。

## 2. 徳島港フェリーのりば移転計画案

### (1)現在の客船ターミナル(徳島港フェリーのりば)について

周辺には商業施設や観光施設が無いと、利用者や送迎者が待ち時間を潰すには不便な立地である。また、緑が少なく人工感があり突出した特徴が無い建築物である。

### (2)移転先敷地の検討

移転先敷地の候補を列挙するにあたり、①実際にフェリーが進入可能であること、②現位置から距離が離れすぎないこと、③利用者にとって分かりやすい場所であること、の3つの条件を挙げる。これらの条件から南末広町と万代町の2か所を検討していく。

南末広町は、現位置との距離が近く敷地面積も十分確保でき、敷地条件が良いため設計の自由度が高い。周辺には大型商業施設や飲食店があり、交通の便も良く利便性が高い。しかし、一部は物流・倉庫業の拠点となっており、簡素な雰囲気ではあるが活気があるとは言いがたい場所もある。一方、万代町は、現位置とは新町川を挟んだ反対側の直線距離で1500m程度の場所に位置する。かつて水上交通の要として機能していたが次第に利用が衰退した。現在は民間活力の導入により賑わいを取り戻しつつある。川沿い近辺は住宅地があるため、仮に海上交通の拠点とした場合には騒音問題等が生じることが考えられる。

以上より、移転先敷地を南末広町と決定する。客船ターミナルのみでなく周辺施設も同時に計画することで現在の簡素な雰囲気を払拭でき、その地域のシンボルになり得ることができないかと考える。

## 3. 南末広町再生計画

現在簡素な雰囲気である南末広町の再生計画ということで、客船ターミナルを核として人々の流入増加が期待される空間づくりを意識する。客船ターミナル本来の機能を果たすため、観光客にとって利用しやすく記憶に残るような、そして地域の人々にとってはもうひとつの居場所となるような、人を引き付ける空間となるよう計画する。再生エリアは主に図1の枠内とする。周辺と繋がりを持たすため、大型商業施設と客船ターミナルを端点としエリア全体にペDESTリアンデッキを通す。中間でシティーホテルとバスターミナルに繋がる。各施設周辺は歩行者専用空間とし歩車分離を図る。既存のバス停付近にバスターミナルを新設し高機能化させる。また、

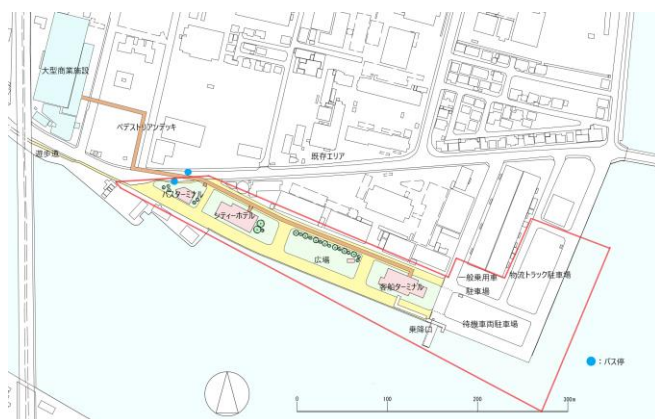


図1 南末広町再生計画案

遊歩道を再生計画エリアまで繋げ、ランニングコースの始点或いは終点の場となる計画とする。

#### (1)客船ターミナル

地域をより活性化させるために、客船ターミナルの機能を中心とした複合施設とした。設計にあたり、現在南末広町にある倉庫群の特徴である切妻屋根の様子を残すべくガラス張りの切妻の大屋根をかけた。また、ファサードにはコンテナを用い、物流をイメージさせるようにした。そうすることで、再生計画後もかつての情景を感じ取ることが出来る。

1階は上部吹抜けの開放的なエントランスを中心に、多目的ホールやフラワーショップ等を設けている。多目的ホールの利用方法は様々であり地域の人々のもうひとつの生活の場・集いの場となる。2階は大型商業施設とペDESTリアンデッキを介して繋がっている。吹抜けを囲む廊下を回り廊下とし、窓から景色を楽しむと同時に展示エリアとしての機能も持つ回遊性のある空間とした。また、ランニングステーションを設け、遊歩道の利用を促す。屋上は半屋外空間であり、自然を肌で楽しめる空間である。フェリーの見送りの場としても最適である。

#### (2)シティーホテル・広場

周辺に宿泊施設が無いため、シティーホテルを設けた。宿泊施設を客船ターミナルに隣接させることでまとまりのあるエリアとなる。宿泊以外の施設も設けられているため、観光客の集客効果を高めるだけでなく県内の人々の利用も期待される。また、緑豊かなエリアを目指し広場を設けた。街角の敷地であるので非常に開放感のある場である。ワンコインフラワー活動の拠点でもあり、地域の人々や来場者全員で作り上げていく場所となる。シティーホテル、広場共に客船ターミナル同様エリア全体に統一感を演出するため、コンテナを用いた。

### 4. エリア計画

良好な環境や地域の価値を維持・向上するため、「まちをつくること」だけでなく「まちを育てる」ことを意識しながら地域の人々や来場者に再生計画に参画してもらうため、2つの取り組みを行う。

#### (1)ワンコインフラワー活動

広場に地域の人々や来場者が花苗を植栽していき、徐々に色鮮やかな空間としていく取り組みである。フラワーショップにて花苗1株500円で購入し、広場内の花壇に植栽していく。売り上げた花苗代500円の一部は施設等の維持管理費に使用する。つまり、購入者が増えることで広場は徐々に雄大になっていき、施設等を利用者の意見・要望が反映された充実した空間に作り替えていく費用を集めることができる。

#### (2)ラクガキアート

フェリー乗客者の特典として、客船ターミナル外壁にペンキやスプレーを使用して自由にイラスト等を描くことができる取り組みである。ラクガキアートにより、竣工したら完成ではなくその後に利用者の手によって新たな表情の建築物に生まれ変わっていく。地域のアーティストを招請して作品を描いてもらう取り組みも行う。地域で活躍するアーティストを他県民にアピールする場ともなり、さらに集客の向上も期待される。

### 5. まとめ

本再生計画は現在ある徳島港フェリーのりばを移転することで、客船ターミナルを核とした充実したエリアの形成を行った(図2)。観光客のためだけの施設になるのではなく、地域の人々にとってももうひとつの集いの場となるよう計画した。また、いかにして地域の人々と共に南末広町を再生させ、活気のある地域にしていくかを重要視した。南末広町が活気のある地域になることは海上交通の活性化にも繋がると考える。

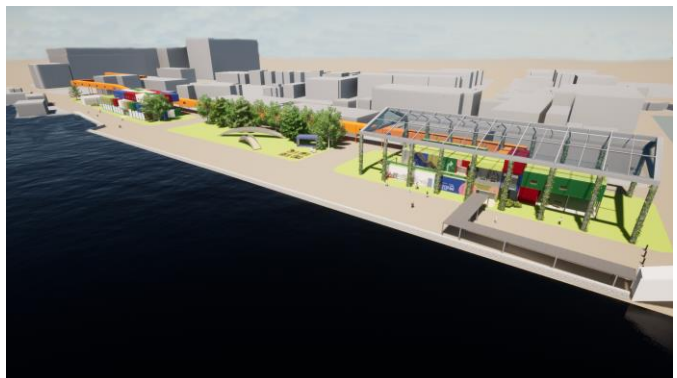


図2 再生計画後の南末広町の様子